

京都市立大枝小学校 学校教育方針

1 学校教育目標

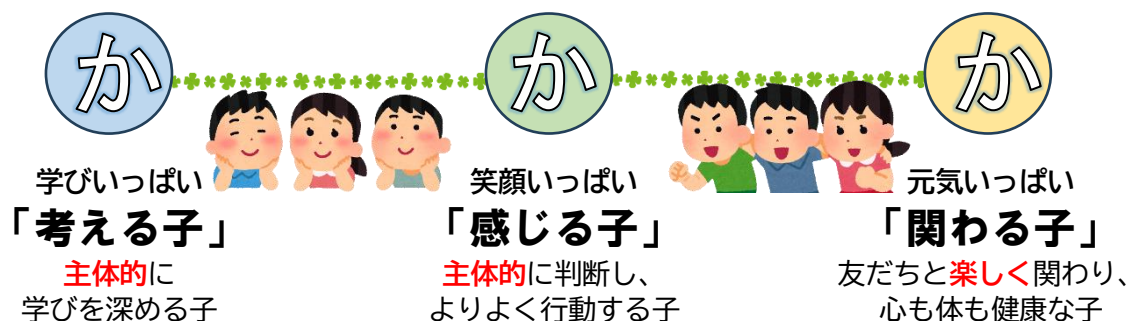
過去から現在そして未来へ続く社会を生き抜く力の育成

本校の児童につけたい資質・能力

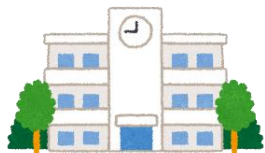
- 『自ら学ぶ力』…進んで考え、学びを深める力
- 『自己決定力』…自ら判断し、よりよく行動する力
- 『協働する力』…自他を大切にし、協働する力



2 目指す子ども像（3つの「か」）



3 目指す学校の姿



- 主体的な学びに向かう楽しい学校（自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考える）
- 安心感があふれるあたたかい学校（思いやりやぬくもりにあふれた言葉や行動）
- 美しく整い、信頼される学校（学習環境が整い、家庭、地域と共に高め合う）

4 目指す教職員の姿

- 教育改革を自ら推進する教職員
 - ・教育のプロとして理想の教育像を掲げ、使命感と責任感をもって教育を進める教職員
 - ・つけたい資質・能力の育成を意識し、子どもが自ら学ぶ主体的な教育活動を創造する教職員
- 情感豊かな教職員
 - ・人権感覚を磨き、人権尊重や命の尊厳を意識する教職員
 - ・子どもの背景にまで思いを巡らせ寄り添い、厳しくもあたたかい指導を実践する教職員
- 心身ともに健康な教職員
 - ・働きがいや楽しさを感じ、みんなで向かう教職員
 - ・高い同僚性を持ち、安心であたたかい職場をつくろうとする教職員



5 学校教育目標達成のために

(1) つけたい資質・能力の育成

①主要4委員会を中心とした取組の推進

委員会名	主な取組
確かな学力委員会	<ul style="list-style-type: none"> *子どもが主体的に学ぶ授業の構築、授業力向上を目指し、校内研究を進める *学力向上を目指し、帯時間や家庭学習の在り方の考察、学力テスト等の分析を進める
豊かな心委員会	<ul style="list-style-type: none"> *生徒指導の側面から、「あたたかい指導」の実現を目指す
人権教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> *子どもの豊かな心の成長と安心できる信頼関係の構築を目指す *総合育成支援教育の側面から、「あたたかい指導」の実現を目指す
健やかな体委員会	<ul style="list-style-type: none"> *子どもの心身の健康・安全を実現する学校づくりを目指す

- つけたい資質・能力をカリキュラムマネジメントの中核に位置付け、教科横断的な視点から教育活動を推進する
- 子どもの姿や変容をもとにしたPDC Aサイクルに則った検証や分析を行う

②基盤となる言語表現力の育成

- あらゆる教科・領域を通した言語表現力の育成
- 対話的な学習場面を授業の中に意図的に設定
- 話し方・聞き方・話し合い方のルールを明確にし、徹底
- 書く力の育成
- 言語表現力を支え広げる読書環境の整備



(2) 学力向上

①授業改善

【目指す授業】

- 子どもが**主体的**・対話的に学び、深い学びを得る授業
- 探究する**楽しさ**を感じられる授業
- 「教師が教える」のではなく、「子ども自らが**主体的**に学ぶ」授業
- すべての児童が「わかる・できる」**楽しい**授業

【授業改善のために】

- つけたい資質・能力を軸とし、全ての教科に波及する校内研究の推進【確かな学力委員会】
- 個や能力に応じた指導・支援の徹底【豊かな心委員会・人権教育委員会】
- ICTの活用【GIGA教育部】
- 協力指導体制の充実（交換授業 専科 授業支援等）

【授業力の向上】

- 授業を行う … 校内研究を核に、児童自らが**主体的**に学ぶ**楽しい**授業の構築
- // 見る … 校内研究 校内OJT 若手研修 他校の研究発表会
- // 学ぶ … 自己研鑽を積む（外部研修 校内OJT 研究会活動等）
全市スキルアップデー（毎月第4金曜日 6校時カット）

②高まりのある学習集団の形成

○ 学習規律の明確化・共通化と徹底

- ・ 学習ルールの徹底（授業中の言葉づかい、姿勢、整理整頓等）
- ・ 構造化された授業（めあて～展開～まとめ・振り返り）
- ・ 板書ルールの統一（めあてカード、色使いのきまり等）
- ・ ユニバーサルデザインの視点に立った教室経営

- 「学ぶことはあたりまえ」の意識と姿勢
- 『やはり、子どもは「授業」で育てる』



③基礎・基本の学力、自主的な学習習慣の定着

- デジタルドリル「ドリルパーク」の活用
- 帯学習の取組、家庭学習の在り方

④「教育DXビジョン 2nd GIGA」に基づいた教育の情報化の充実

- ICT機器を活用し、情報活用能力の向上を目指した取組
- GIGAスクール構想のさらなる推進による協働的な学びと個別最適な学びの実現
- デジタル・シティズンシップ教育の推進

(3) 人権教育の充実 ～豊かな人権感覚を育むために～

①同和教育

- 一人一人の人権を大切にし、同和問題の解決に向けて主体的に行動できる実践的態度と能力を育てる。
- 全ての児童の学力の向上を図る。
- 研修を通して、教職員自ら鋭い人権感覚を身につける。
- 同和問題指導・素地指導の充実を図る。
- 保護者啓発の充実を図る。

②総合育成支援教育

- 障害についての理解を深め、すべての児童に、人を人として尊敬し他者にやさしくできる力を育てる。
- ひまわり学級と普通学級との交流を通して、すべての児童が障害についての理解を深め、互いに触れ合い支え合うようにする。
- LD等通級指導教室との連携を深めながら、支援の必要とする子どもへの指導体制の充実を図るとともに、あたたかい支援ができる学年、学級作りを進める。

③外国人教育

- 民族や国籍の違いや文化の多様性を認め、相互の主体性を尊重し、共に生きる国際協調の精神を養い、実践的態度を育てる。
- 外国人児童及び外国にルーツをもつ児童ひとり一人の自己実現に向け、学力の向上と個性の伸長を図る。
- 外国人児童及び外国にルーツをもつ児童の保護者との連携と信頼関係の構築を図る。

④ジェンダー教育

- 性差を理解しつつ、性別に捉われることなく、ともに尊重、協力し合いながら、自分らしく生きることのできる力を育てる。

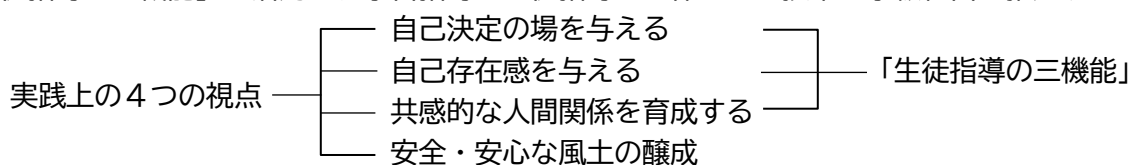
(4) 発達支持的生徒指導の充実

①目指すべき子どもの姿

- 自己指導能力を育てる
(自ら考え、判断・行動をする力)
- 自己肯定感を育てる
(自分には良さや可能性があるという意識)
- 自己有用感を育てる
(自分は人の役に立つ存在であるという意識)



②「生徒指導の三機能」を活用し、学習指導と生徒指導が一体となる授業や学級経営を推進する



③指導に関して

- 一人ひとりの子どもが**安心**して**楽しく**過ごせ、学習に向かう学級・学校づくり
(誰もが、「今日も学校に来てよかった」「学校が**楽しい**」と思える学級・学校)
- 厳しくも**あたたかい**指導の実践
 - ・ 子どもの置かれている背景(生育状況や家庭環境)にまで目を向け、思いを馳せ、子どもの立場に立った児童理解を心がける。
 - ・ まずは、話を十分聞いたうえでの共感。「なるほど、そういう思い(理由)だったのだね。」
 - ・ 次に、心に染み入り届く指導。言い聞かせるのではなく、子ども自らが価値を理解できる指導
「●●することはダメだ!」→「●●することはダメだと先生は思うけれど、あなたはどうか?」
- 日常観察を積極的に行い、心情や行動を多面的にとらえて、見逃しのない観察、手遅れのない対策をとり、根気強く心の通った指導を行うことで子どもや保護者との信頼関係を深める。
- 信頼関係を築いたうえで、行うべき指導は教職員全体が共通理解のもと徹底して行う。
- ただし、威圧感を与える感情的な指導(行き過ぎた指導)は行わない。
- オフィシャルな言葉づかいの徹底(教職員も児童も)
- 有事の際の対応は、素早く丁寧に誠意をもって行う。

(5) 健康教育の充実

- 子どもたちが**主体的**に自らの健康を守り、保つことを目指す。【保健部を中心に】
- 子どもたちが**主体的**に自身の体力向上を意識し、行動することを目指す。【体育部を中心に】
- 子どもたちが**主体的**に自身の安全を意識し、行動することを目指す。【安全部を中心に】
- 子どもたちが**主体的**に自身の食生活を意識し、行動することを目指す。【給食部を中心に】
- 子どもも教職員も常に安全に対する意識を高くもち続けることができるように努める。
- 一人一人の心身の健康状態を的確に把握し、健康な体作りに取り組む。
- 安全な環境を保ち、怪我、事故の未然防止と指導の徹底を図るようにする。

(6) 開かれた学校づくり

- 教育活動(ねらいや内容)の積極的な提示
- 学校運営協議会での熟議や参画による学校運営の充実
- 学校評価の効果的な活用
- 学校ホームページの充実
- 地域の資源(ひと・もの・とき)を効果的に活用

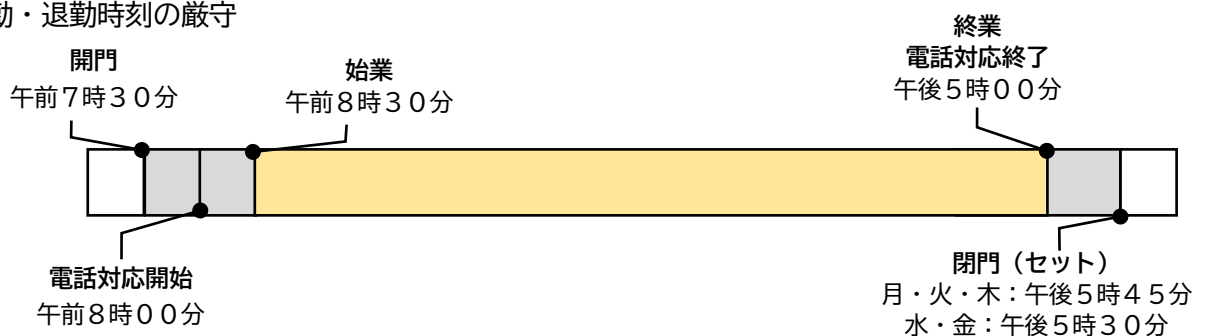
6 働き方改革の推進

(1) 熱意と働きがい、**安心**と元気のある職場

- 教職員が、やりがいを感じ、心身ともに明るく元気で子どもに向かう。
- 日々の生活や教職人生が楽しく幸せである働き方を目指す。
- 高い同僚性のある**安心であたたかい**職場にする。
 - ・お互いが得意なところを生かし、助け合い、教え合う。
 - ・お互いの事情や都合を理解し合い、助け合い、支え合う。
 - ・様々な職種の職員の仕事をお互いに尊重し合い、感謝し合う
- 自己研鑽に努め、お互いが切磋琢磨するプロとしての教育集団を目指す

(2) 時間を意識した働き方

- ゴールイメージと見通しをもち、計画性のある働き方
- 計画・実践は「足し算」でなく「引き算」で
- 出勤・退勤時刻の厳守



(3) 業務の効率化

- 交換授業、協力指導体制の推進
- GIGA 端末等、ICT 機器を活用した教材の使用、校務の推進
- 校務支援員の活用
- 提案文書の即時修正（取組終了後、反省やアンケートをもとに加筆・修正→次年度へ）
- 連絡ツールとしての「すぐる」の活用

(4) 業務の精選・適正化

- 見通しのある年間行事計画・年間研修計画の作成
- PDCAサイクルを生かしての取組の改善
- 学級だより・学年だよりの簡素化（情報発信はできる限り学校HPで）

7 今年度の重点

「**楽しい学校**～子どもも大人も**安心**して力を発揮できる居場所づくり～」

- 教職員が健康で、毎日、元気に**楽しく**子どもと接することが最優先！
- 授業も取組も、アイデアいっぱい**楽しみながら**クリエイティブに！
- あたたかい**指導のもと、子どもの笑顔や成長を**みんなで喜べる職員室**

「**学力向上**～資質・能力を基盤にすべての教科で～」

- 「子どもが**主体的に学ぶ**」**楽しい授業**への意識改革と授業改善
- すべての児童に、**資質・能力と基礎・基本の学力**を身につけさせ、学力向上を目指す
- 教える（Teach）のではなく、支える（Coach）意識で授業を構築